

## 報 告 書

2016年 4月28日

望月 厚司 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	4月26日（火）～27日（水）	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	2016マニフェスト大賞キックオフ！ ～マニフェスト大賞受賞者から、対話と協働の実践を学ぶ 2日間～ 牧之原市坂部区民センター於
	(2) 対 応 者	西原茂樹 牧之原市長（2015年マニフェスト大賞首長 受賞者） 中道俊之 滝沢市議会事務局長 牧之原市 まちづくり協働ファシリテーター 北川正恭 早稲田大学名誉教授 佐藤淳 青森中央学院大学准教授
3 目 的	例年のマニフェスト大賞応募開始に先立ち行われているキックオフ大会で、前年度受賞者の実践例を伺う。まちづくりや政策提言などどのように行われているかを聞く。議会改革など、議会側の対応なども伺う。様々な意味で、今年のマニフェスト大賞の充実に繋げるために何が必要かを学ぶために参加する。2日目は参加できず残念。	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p><b>北川正恭名誉教授「地方創生における議会の役割」</b> マニフェストは民主主義の原点。気づき行動してほしい。改革は自分がやるの気持ち。地域の構成のあり方なども重要だが、実験して市全体に広げていくことが大事だ。それぞれ地方創生・地方自治だ。</p> <p><b>佐藤淳准教授 「議会における対話の重要性～議会報告会・議員間討議での実践～」</b> 議論と対話のちがい。議会報告会のやり方。やりやすい雰囲気づくりが大事。市民に対する呼びかけの仕方。テーマと問いの違いの理解。意味づけをするプロセス、それが対話だ。対話・会話・討論・議論それぞれのダイアログを理解する事。</p> <p><b>中道俊之前滝沢氏議会事務局長 「政策提言型・議会の実現」</b> 開かれた議会・市民と共に歩む議会・行動する議会が議会基本条例の3つの理念・地域住民を上に据える逆さまのピラミット。議会の目指す状</p>	

	<p>態⇒政策をマーケティングする議会・コミュニケーションする議会・政策を立案する議会・経営マインドを持った議会</p> <p>議会活動の進化⇒追認監視⇒広聴開始⇒政策提言</p> <p>議員間討議の意義⇒市民満足度と信頼度の向上・密度の濃い合意形成</p> <p>ダイアログ（対話）をスムーズに進めるために、ファシリテーションのスキルが必要、その能力が低いと議員間討論がうまくいかない。</p> <p>議会の成果とは⇒自治の成熟によって公共の福祉を向上させるというビジョンを具体的実現させるための行動（改革・改善）とその結果としてもたらされる市民福祉の向上・アウトプットだ。</p> <p>議論することでそうそう解決するものではないが、整理でき理解できるその過程が大事なことだ。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>静岡市議会は、議員間討論はやっているとは言えないと思っている。非公開の代表者会議は分からないが、委員会においては、それぞれの会派代表が、議案について意見を述べるのみ。議員間の意見交換は行われない。そこに至るまで、各会派で議論は積んできているとは思いますが、会派間の意見の異なる場合の意見交換はない。会派合意を述べるにとどまっている。その場での委員間討論が出来ればと思う。この辺りが議会改革の必要なところではないだろうか。また、議会基本条例に謳われているにも関わらず、議会が主体となつての議会報告会も行われていない。実施していくべきではないかと思う。議員発の条例制定や政策提言はなかなかハードルが高い。会派ごとの活動になりがちで、2元代表・議会が一丸となつての動きはいささか出来難い状況だ。これらを打破していかなければ、議会改革は難しい。先進事例を参考に静岡市議会ももっとラジカルに動くべきではないだろうか。</p> <p>牧之原市の市民ファシリテーターのリードは素晴らしかった。問いに工夫がなされていることは学ぶべきだ。課題は何ですかではなく⇒望んでいる状況は？と聞く。解決策は？ではなく⇒市民と議会いっしょにできることはどんなこと？と聞く。その場で話し合っている様子や発言の内容をグラフィックにして表現するグラフィック・ファシリテーションがすごく理解できるまとめになっていた。これが経験でできるのかな～と思うほど上手だった。これまでの集会の様子も会場いっぱい張り出されていた。こんなリーダー養成が静岡でもできたらいいな～と思った。</p>

(注)

- 1 この別紙は、視察先ごとに作成すること。
- 2 連名により作成することも可能。
- 3 この様式により難しい場合は、別の様式によることができる。